



内閣府

～美ら島の未来を拓く～沖縄総合事務局
定例記者会見（１０月）

平成３０年１０月１８日（木）１４：００～
沖縄総合事務局６階「特別会議室」

【発表事項】

1. 「いいね！AWAMORI 展」（沖縄大交易会併催事業）の開催について
2. 本部港クルーズシンポジウムの開催について
3. 高校生向け路線バス利用促進の実証実験について

出席者 沖縄総合事務局

局 長
総務部広報室長
経済産業部長
開発建設部長
運輸部長

能 登 靖
具 志 善 次
寺 家 克 昌
中 島 靖
石 谷 俊 史

平成30年10月18日
～美ら島の未来を拓く～
沖縄総合事務局

いいね！AWAMORI 展(沖縄大交易会併催事業)を開催します。

沖縄総合事務局は、沖縄県酒造組合、沖縄県のほか酒類、経済、観光などの団体・企業・個人や内閣府等の関係府省と連携し「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」を立ち上げ、酒造所が主体となって行う海外への販路開拓などに向けた取組を官民一体となり後押しをしています。

平成30年度は、沖縄大交易会の併催事業として「いいね！AWAMORI 展」を開催し、海外・国内バイヤー等に向け、泡盛の認知度向上を目的として、琉球泡盛の製法・歴史や、海外市場に向けたブランド戦略・商品づくりの先進事例等の紹介や試飲会を実施します。

1. 開催日時

平成30年11月29日(木) 10:00～17:00

平成30年11月30日(金) 10:00～17:00

2. 開催場所

沖縄コンベンションセンター会議棟A (1F) 会議場A3

3. 内容

別紙のとおり

問い合わせ先

内閣府沖縄総合事務局

経済産業部商務通商課

担当者:徳門、森田

TEL : (098) 866-1741

FAX : (098) 860-3710

いいね！AWAMORI展【沖縄大交易会2018併催事業】

平成30年10月
沖縄総合事務局
沖縄県酒造組合

沖縄総合事務局は、沖縄県酒造組合、沖縄県のほか酒類、経済、観光などの団体・企業・個人や内閣府等の関係府省と連携し「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」を立ち上げ、酒造所が主体となって行う海外への販路開拓などに向けた取組を官民一体となり後押しをしている。

平成30年度は、沖縄大交易会の併催事業として「いいね！AWAMORI展」を開催し、海外・国内バイヤー等に向けた泡盛の認知度向上を目的として、琉球泡盛の製法・歴史や、海外市場に向けたブランド戦略・商品づくりの先進事例等の紹介や試飲会を実施する。

内 容 展 示

・琉球泡盛海外輸出プロジェクト紹介

官民による泡盛海外展開の取組や、国産長粒種米による泡盛づくりの取組をパネルで紹介。

・琉球泡盛製法・歴史紹介

パネル展示や47酒造所の泡盛を展示。

・欧米・中国における泡盛の海外展開

海外市場から見たブランド戦略・商品づくりをテーマにアイスランドや中国向けの取組についての海外向け商品の展示、パネル展示、映像による紹介。

・インバウンド向け取組紹介

酒蔵ツーリズム、クルーズ船内プロモーション等についてパネル展示及び映像で紹介。

試飲会

・国産長粒種米（国産）を使った泡盛の試飲。

・食事等のシーンに合わせた泡盛の提案。

主催：沖縄総合事務局、沖縄県酒造組合

共催：(株)Blueship沖縄、(株)ビンコウHD

日時：平成30年11月29日(木)・30日(金)10:00～17:00

場所：沖縄コンベンションセンター会議棟A 会議場A3

欧米における琉球泡盛の海外輸出プロジェクト (株)Blueship沖縄)

欧米市場に向けた取組。ローカルのバー等で展開し、ハードリカー分野での琉球泡盛のブランド構築を目指す。2017年度はアイスランドでカクテルコンペ等を実施し、今年度は本格販売に向け取り組んでいる。



「沖縄白酒」中国輸出&インバウンド展開事業 (ビンコウHD(株))

泡盛を中国市場および中華系インバウンド市場向けに展開。泡盛を「日本酒」ではなく「白酒」（蒸留酒）として認知させるため、歴史的な琉球王国の御用達酒としてブランディング・PRに取り組んでいる。



県産長粒種米泡盛の製造プロジェクト

琉球泡盛の価値を向上させるべく、沖縄県内にて長粒種米を栽培し泡盛を製造する取組。沖縄県内で栽培中のコメの収穫が11月のため、展示会では、国産長粒種米で仕込んだ泡盛を紹介する。



酒蔵ツーリズム・クルーズ船内プロモーション展開事業 (沖縄県酒造組合)

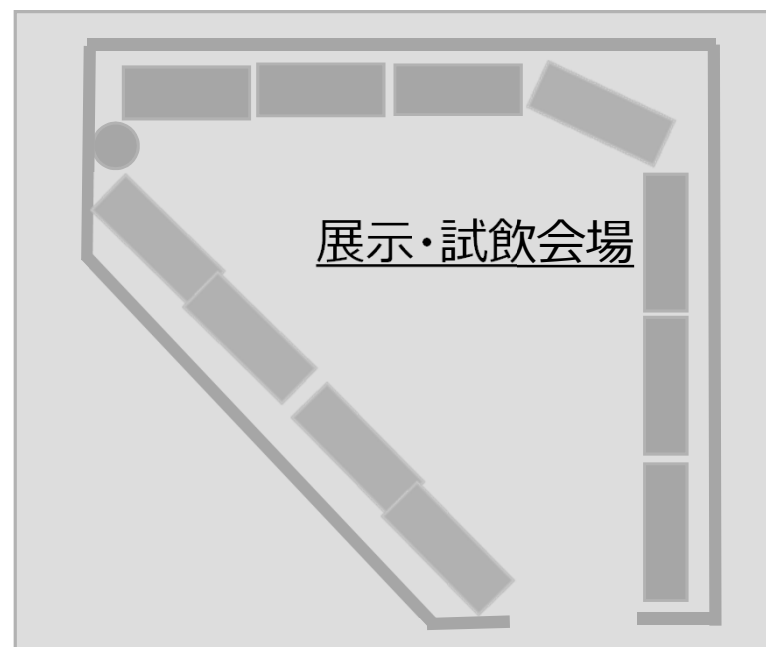
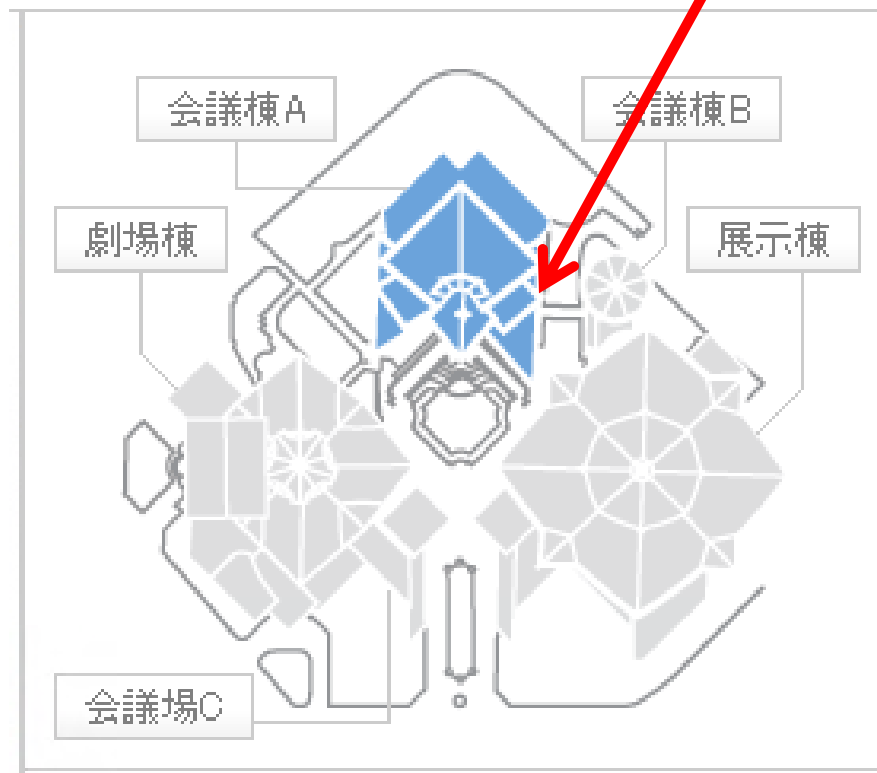
インバウンドを中心とした観光客を対象に琉球泡盛のPRする取組。各酒造所を紹介し地域回遊や体験を促す酒蔵ツーリズムや、香港等のクルーズ船内での泡盛試飲体験等のプロモーションに取り組んでいる。



会場

沖縄コンベンションセンター会議棟A 会議場A3

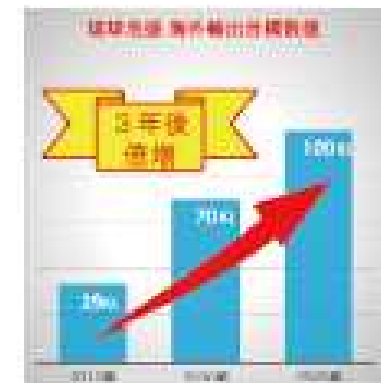
2018 沖縄大交易会



琉球泡盛海外輸出プロジェクト（設立時の概要）

目的

琉球泡盛の海外展開を促進するため、
官民の関係者一体となった取組を推進
(目標値) 平成32年(2020年) 70KL、
平成34年(2022年) 100KL
※現状(平成29年(2017年)) 29KL



構成

目的に賛同する関係団体、地方公共団体、関係府省などで構成

【顧問】 宮腰 光寛 内閣総理大臣補佐官

【会長】 小泉 武夫 東京農業大学名誉教授

【副会長】 佐久本 学 沖縄県酒造組合会長

【会員】

(関係団体等)

沖縄県酒造組合、沖縄県卸売酒販組合連合会、沖縄県小売酒販組合連合会、
沖縄県商工会連合会、沖縄県商工会議所連合会、沖縄県産業振興公社、
沖縄県ホテル協会、沖縄観光コンベンションビューロー、泡盛マイスター協会、
日本ソムリエ協会、沖縄県物産公社、沖縄振興開発金融公庫 ほか

(地方公共団体・関係府省)

沖縄県、内閣府、国税庁、内閣官房、外務省、農水省、観光庁、JETRO

取組内容

- 琉球泡盛の輸出促進に関する取組の具体化・工程表の策定
- 各構成員による関連プロジェクトの実施、及び各プロジェクト間での連携推進
- プロジェクト会合を開催し、構成員相互の取り組みについて情報交換

沖縄大交易会2018(第5回) 出展企業

- ・(名)崎元酒造
- ・瑞泉酒造(株)
- ・(有)比嘉酒造
- ・(有)八重泉酒造
- ・(株)ビンコウHD



平成30年10月18日
～美ら島の未来を拓く～
沖縄総合事務局

「本部港クルーズシンポジウム」の開催

沖縄総合事務局では、本部町、沖縄県との共催及び北部振興会のご後援により、下記のとおり「本部港クルーズシンポジウム」を開催致します。

2017年、本部港が国際クルーズ拠点として位置付けられたことを踏まえ、北部圏域全体で拠点形成に向けた機運を盛り上げるとともに、クルーズに関する行政、民間及び地域住民など相互の理解促進と本部町をはじめとした北部圏域のPR・認知度アップを図ります。

1. イベント名：「本部港クルーズシンポジウム～本部港におけるクルーズ振興の可能性～」
2. 開催日：平成30年10月27日（土）午後2時～
3. 主催：本部町・沖縄県・内閣府沖縄総合事務局
4. 後援：北部振興会
5. 会場：本部町会館（本部町字渡久地4番地）
6. 開催内容
 - 【第一部】基調講演「クルーズ船寄港を通じた地域振興」
講演者：杉本 健次 氏（(株)JTB沖縄 代表取締役社長）
 - 【第二部】パネルディスカッション「本部町・北部圏域におけるクルーズ振興と課題」
コーディネーター：大谷 健太郎 氏（名桜大学 上級准教授）
パネリスト：平良 武康 氏（本部町長）
山本 三夫 氏（(一財)みなと総合研究財団クルーズ総合研究所 所長）
前田 裕子 氏（前田産業ホテルズ 代表取締役社長）
小島 博子 氏（(株)EGL OKINAWA 代表取締役）
大城 逸雄 氏（那覇バス(株)・(株)琉球バス交通 常務取締役）
7. 参加料：無料
8. 取材：可

問い合わせ先
内閣府 沖縄総合事務局
開発建設部 港湾計画課
担当者 與儀・宮里
TEL：098-866-1906
FAX：098-861-9916

本部港クルーズ シンポジウム

～本部港におけるクルーズ振興の可能性～

◇開催趣旨◇

2017年、本部港が国際クルーズ拠点として位置付けられたことを踏まえ、北部圏域全体で拠点形成に向けた機運を盛り上げるとともに、クルーズに関する行政、民間及び地域住民など相互の理解促進と本部町をはじめとした北部圏域のPR・認知度アップを図ります

プロ グラム

第一部 午後2時 ～ 3時15分

【基調講演】

杉本 健次 氏(株)JTB沖縄 代表取締役社長
「クルーズ船寄港を通じた地域振興」

第二部 午後3時30分 ～ 午後5時

【パネルディスカッション】

「本部町・北部圏域におけるクルーズ振興と課題」

入場
無料

事前申込み不要

◇コーディネーター: 大谷 健太郎 氏 名桜大学 上級准教授

◇パネリスト: 平良 武康 氏 本部町長

山本 三夫 氏 (一財)みなと総合研究財団クルーズ総合研究所 所長

小島 博子 氏 (株)EGL OKINAWA 代表取締役

前田 裕子 氏 前田産業ホテルズ 代表取締役社長

大城 逸雄 氏 那覇バス(株)・(株)琉球バス 常務取締役

日時

2018.10.27 [Sat]

14:00開演 (13:30開場)

会場

本部町会館

(本部町渡久地4)

World Dream

◆主催: 本部町・沖縄県・内閣府沖縄総合事務局

◆後援: 北部振興会

◆お問い合わせ: 内閣府 沖縄総合事務局 港湾計画課

TEL: 098-866-1906

本部港クルーズシンポジウム

2017年、本部港が国際クルーズ拠点として位置付けられたことを踏まえ、北部圏域全体で拠点形成に向けた機運を盛り上げるとともに、クルーズに関する行政、民間及び地域住民など相互の理解促進と本部町をはじめとした北部圏域のPR・認知度アップを図ります。

基調講演

すぎもと けんじ

●講演者 **杉本 健次** 氏 (株)JTB沖縄 代表取締役社長



～クルーズ船寄港を通じた地域振興～
県内で数多くのクルーズ船ランドオペレーターとしての実績を持つJTB沖縄の杉本社長から見た、北部地域における、クルーズ船寄港に対応した観光振興や地域振興のあり方について、他地域の事例を交えてご紹介します。

◆講演者ご紹介

1960年福岡県出身。

1983年(株)日本交通公社(現株)ジェイティービー)入社。(株)JTBワールドバケーションズ商品企画部企画・開発マネージャー、(株)JTB西日本執行役員大阪中央支店長、取締役京都支店長などを歴任、2016年より現職。

●コーディネーター おおたに けんたろう
名桜大学 上級准教授 **大谷 健太郎** 氏
(国際学群 観光産業教育研究学系)



1978年 東京都出身
2008年、名桜大学国際学群に講師として着任。現在、上級准教授として観光産業専攻長と国際交流センター副センター長を兼務。2016年に内閣府沖縄総合事務局による「北部地域振興に資する港湾整備に関する検討会」の座長を務めた他、現在は那覇港における「官民連携による国際クルーズ拠点整備」に係るクルーズ船社選定委員会の委員など地域における活動を多く行っている。

●パネリスト **たいら たけやす**
本部町 町長 **平良 武康** 氏



1950年 本部町謝花出身。
1973年、名城大学卒業後、同年6月に沖縄県庁に入庁。農林水産部流通対策班東京駐在主幹や北部農業改良普及センター所長、沖縄県立農業大学校校長などを歴任。2011年4月から2018年7月まで本部町副町長を務め、2018年9月より現職。町民生活の豊かさを第一に据えて、「日本一心豊かな町づくり」をテーマに本部町の観光や農業等の各産業を融和し、総合産業を作りあげていく。

●パネリスト
(一財)みなと総合研究財団 やまもと みつお
クルーズ総合研究所所長 **山本 三夫** 氏



1957年 北海道出身。
2016年クルーズ総合研究所設立時に所長に就任。
平良港国際クルーズシンポジウムではパネラーとして登壇。中国・海南島で開催された「中国クルーズ SHIPPING 12」や韓国・済州島で開催された「2018アジア・クルーズ・フォーラム済州」など、各種国際会議へ参加し、外国船社等との交流。新たなクルーズの提案・調査など積極的な活動を行っている。

●パネリスト
前田産業ホテルズ まえだ ひろこ
代表取締役社長 **前田 裕子** 氏



1967年名護市出身。
1989年都内ホテルに入社。帰沖後、1993年に父親の経営する(有)前田産業へ入社。2006年より現職。名護市と本部町に個性の異なる3つホテルを経営。ウエルネスをテーマに、地元企業ホテルとして、新しい観光のスタイルやホテルサービスのあり方を日々模索、実践中。経営理念である「“ちむぐる”でおもてなし」をモットーに同社のビジョンである「第二の我が家として選ばれるNo.1のホテル」を目指して奮闘中。

●パネリスト
(株)EGL OKINAWA こじま ひろこ
代表取締役 **小島 博子** 氏



1961年 福岡県出身。
観光関連の専門学校卒業後、沖縄の着地型商品に力を入れていたスカイツアーズに入社。結婚を機に退社するも、子供の入学を機に、仕事復帰。ジャンボツアーズでは、主にインバウンドのマネージメントを行い、同社の定期路線の無いアジア地域への双方向チャーターに関わる。同社の常務執行役員を経て2015年、香港の訪日大手EGLツアーズと提携し、(株)EGL OKINAWAを設立。EGLツアーズの旅客の沖縄での受け入れを行うと同時に、その他、国内外からの旅客も取り扱う。

●パネリスト
那覇バス株式会社
株式会社琉球バス交通
常務取締役 **おおしろ かつお**
大城 逸雄 氏



1963年神奈川県出身
1986年沖縄国際大学卒業。那覇バス在籍時、事業再生に取り組み、企業内託児所の設置や閑散期の派遣事業、夏季休暇制度に取り組み、職場環境の改善を図る。また、バスガイドによる三線ユニットを立ち上げ修学旅行や団体などで三線ライブを年間50公演程度行っている。

パネルディスカッション

【会場】本部町会館(本部町営市場2階) 本部町渡久地4番地

☆バスでお越しの方☆

名護バスターミナルより系統番号65・66番に乗りし、渡久地にて下車
(所要時間約40～60分)

☆お車でお越しの方☆

下記の2箇所の駐車場をご利用ください。

①本部町役場(本部町字東5番地) 約60台収容可能

②市場駐車場(本部町字渡久地764-6番地) 約50台収容可能

※①、②とも会場まで徒歩5分程度

会場アクセスマップ





平成30年10月18日
～美ら島の未来を拓く～
内閣府沖縄総合事務局

高校生向け路線バス利用促進の実証実験について

沖縄県内の路線バス利用者数は減少し、市街地では交通渋滞が慢性化している中、通学交通に関しても自家用車送迎による学校周辺の渋滞等が問題となっております。今般、沖縄総合事務局では、OKICAを発行しております沖縄ICカード株式会社様にご協力頂き、以下の実証実験を実施いたします。

本実証実験において得られたアンケート、利用履歴等を活用して公共交通の利用促進、移動手段の分散化による交通渋滞の緩和を図ります。

【公共交通を利用した通学体験実証実験】

- ・ 那覇市内の全高校を対象に高校生への路線バス利用意識啓発ツールを配布しました。
(平成30年10月から配布開始)
- ・ 実験参加者には、バス路線検索・最寄りバス停への接近情報等が分かる「通学バス運行情報サイト」を提供し、公共交通機関を利用した通学を体験してもらいます。
- ・ 実験参加者には、OKICAを貸与します。
- ・ 貸与するOKICAには、購入額に応じ上乗せしてチャージを行います。

(実験期間)

平成30年11月5日～平成31年2月22日

【その他】

- ・ OKICAを利用してバス・モノレールを利用した方には、各商業施設等において独自の特典・サービス（割引・1品サービス等）を受けることが出来る『OKICAWARI』を継続実施しております。

【添付資料】

【問合先】

沖縄総合事務局運輸部企画室 三宅・崎濱・新田・池間
TEL 098-866-0031（内線 85242・85246・85244）
FAX 098-860-2369

【受託事業者】

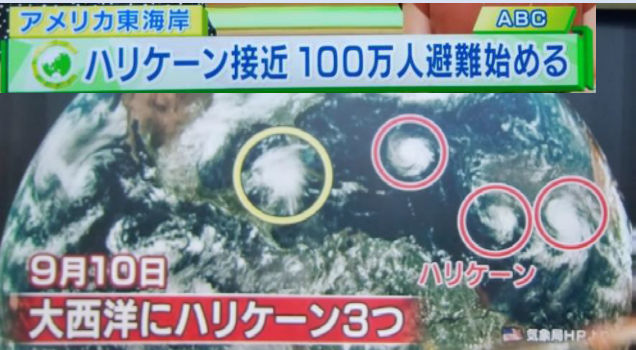
株式会社 国建

A 沖縄周辺では台風の頻発が心配の種になっておられますが、地球上のあらゆるところで異常気象による自然災害が発生し、人々の生命や財産が奪われています。
この問題には地球市民の全員が取組まなければ、地球は私達人類が住めない環境になってしまいます。

今の地球の異常気象は、これまでもあった自然現象が地球温暖化により極大化したものです。極大化した自然現象とは次のように、極端な規模で、あるいは集中的に起きる現象です。

雨が降る時は豪雨災害が起きるほどの大雨が降り、
降らない時は日照り・乾燥で農作物が被害を受け、乾燥した木々がこすれ合うことで山火が発生するほど乾燥する。

日本で台風がたくさん発生し、集中豪雨で大きな被害が出ているというニュースが毎日のように報道されています。極大化した自然災害は地球上のあらゆるところで発生しています。最近の災害事例を NHK ニュースのテレビ画像でご紹介します。



【米国】極大化したハリケーンが米国を襲い、
沖縄県の人口に匹敵する人々が避難。。。



【熱波】この夏、日本も記録的な暑さに襲われたが、ヨーロッパでも。。。



【乾燥】地球が温室化し乾燥が進み、食糧が
消え、地球は生物が住めなくなる。。。。

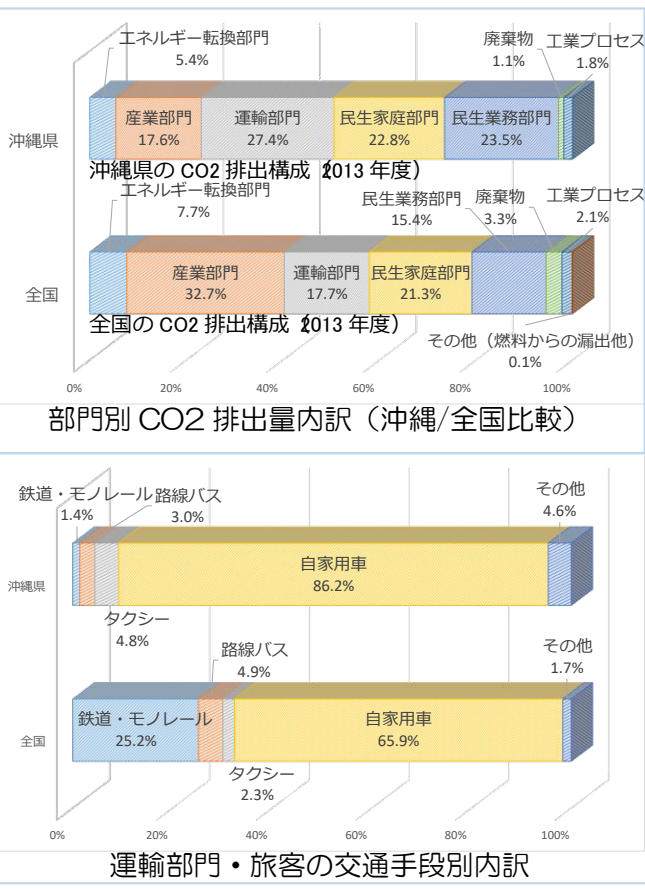
C 次を示すデータ等をみると、CO2排出削減及び渋滞対策に公共交通利用が効果的であることがわかります。

■公共交通利用がCO2排出削減に効果があることを示すデータ

右上の図で全国と沖縄県の部門別二酸化炭素排出量の排出構成を比較すると、全国では運輸部門は3位ですが、沖縄県では1位で27.4%と高い割合を占めています。

さらに、右下の図で、運輸部門・旅客の交通手段別内訳をみると、沖縄は自家用車の割合が全国に比べて 20%以上も大きいものとなっています。

下段の図にみるように、1人が1 km移動する際の、輸送手段別のCO₂排出量は車が最も大きく、バスの3倍の排出量となっています。自家用車の利用を減らし、バスを多く利用するとCO₂排出量が減らせことがわかります。



1人が1km移動する際の輸送手段別CO2排出量(g-CO2/人キロ)

2

■渋滞対策効果を示すデータ

下の図は、沖縄と同じように一人乗りが多い大量の車の利用者をバスにませ換えると、たった3台のバスで受け入れることができるという事を示しています。

左の写真のようなものすごい渋滞状況が、右の写真のように、たった3台のバスで解決してしまうのです。



出典：ストラスブール市資料

点線からハガキ部分を切り取ってアンケートにご回答のうえご返送ください。

3

B 那覇市周辺の交通は、県民の生活習慣から車利用が多く、渋滞が激しく、混雑時の旅行速度は他の県庁所在地と比較してもワーストワンです。

右のような沖縄に特徴的な生活習慣等が車を増やし渋滞を惹起していると言われています。

- ・ 近くのコンビニにも車で行く
- ・ 車による生徒等の通学送迎

増大する交通量と都市圏に集中する交通

■沖縄県内の平均交通量は11,325台/24h、全国平均の約1.45倍

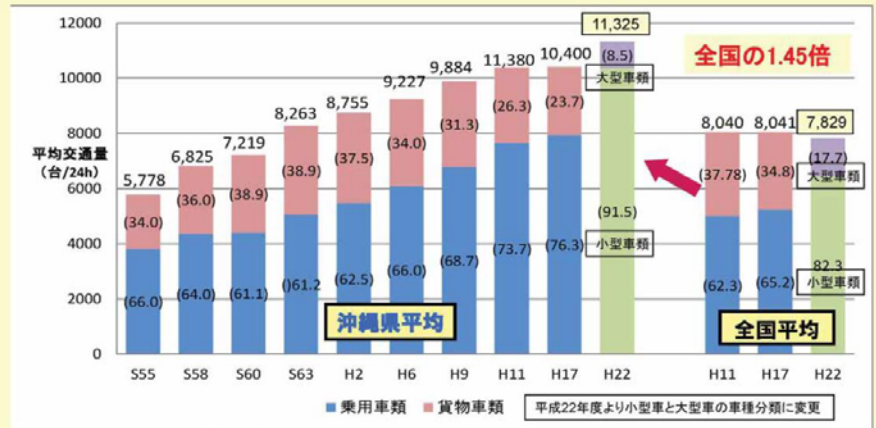


図 道路交通センサスによる平均交通量の推移

料金受取人払郵便
那覇中央局
承認
4334
差出有効期限
平成30年03月
22日まで有効
(切手不要)

9	0	0	- 8	7	9	0
---	---	---	-----	---	---	---

沖縄県那覇市久茂地1丁目2番20号
O T V 国和プラザ
株式会社国建土木設計部内
地球温暖化防止と公共交通利用促進
アンケート調査係 行

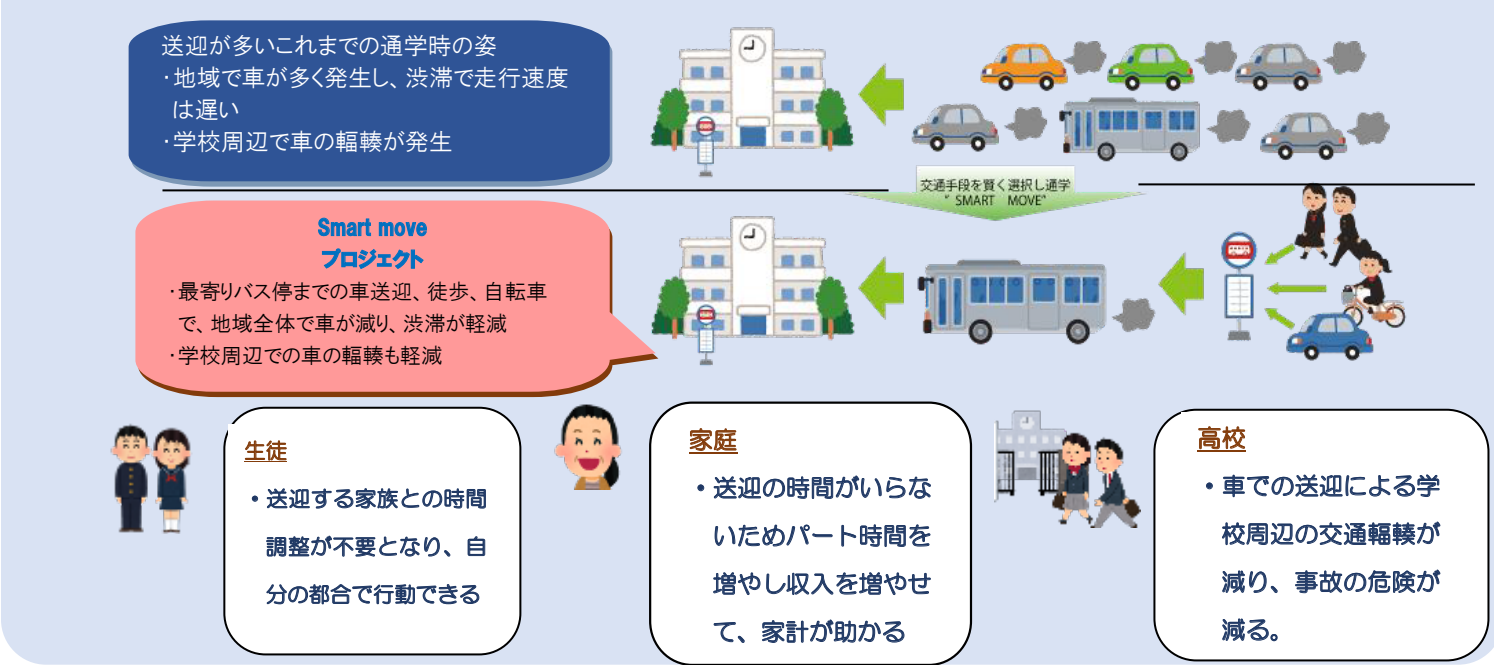


D A～Cを踏まえ、高校生のみなさんに“smart move”というカッコイイ取組みを提案します。

政府広報においては、全国各地で普段の生活の中で利用している交通方法を見直し、様々な移動手段の使い方を工夫してCO2削減をしようという取組み“smart move”（スマートムーブ）を推進しています。

沖縄の高校生のみなさんにも、自分の通学時の交通行動を振り返ってもらい、沖縄県民にとっての大きな社会的課題である地球環境問題や交通渋滞問題の解決に貢献して頂きたいと考えています。

具体的には、**ご家族の車送迎による通学をなさっている方を中心に**、バスなど公共交通を賢く利用してもらう“smart move”プロジェクトを試行いたします。



点線から切り取って **アンケート用紙** にご回答のうえご返送ください

- 所属を教えてください。 _____ 高校 ____ 年生
- 住まいを教えてください。 _____ 市・町・村 _____ 字・丁目
- あなたの登校時の交通手段について教えてください。（頻度の高い順に1～3の番号を記入してください。）
☐ 徒歩 ☐ 自転車 ☐ バス ☐ モノレール
☐ 保護者等による送迎（週に _____ 回ぐらい）
☐ その他（ _____ ）
- あなたの下校時の交通手段について教えてください。（頻度の高い順に1～3の番号を記入してください。）
☐ 徒歩 ☐ 自転車 ☐ バス ☐ モノレール
☐ 保護者等による送迎（週に _____ 回ぐらい）
☐ その他（ _____ ）
- 塾や遊びに行くなどで、下校時に家に直行しない日は一ヶ月に何日ぐらいありますか。
 月に（ ）日位
- 土、日、祝日に登校する日は一ヶ月に何日ありますか。
 土曜に（ ）日位 日曜に（ ）日位 祝日に（ ）日位
- 右欄にて提案したスマートムーブプロジェクトに参加しますか。
☐ する ☐ しない → 回答は終了です。ご協力ありがとうございました。

参加を希望する方は以下にご記入ください。（住所は室番までご記入ください）

※今後、支払いの連絡等を行いますので、連絡先（E-mail、Line、携帯電話の番号など）を右のQRコードを読み取り回答してください。

住所： _____ 市・町・村

氏名： _____

- 【アンケート返信用はがき記入にあたってのお願い】**
- この説明用紙を一通り読んでいただいたうえで、3、4ページに印刷されている返信用はがきに直接ご回答ください。
 - 通学時の送迎に関する事項ですので、できるだけ在校生と（送迎を担当されている）ご家族の皆様で相談しながら、ご記入ください。

アンケートにご回答いただいた返信用はがきを切り取り、切手を貼らずに平成30年10月22日（月）までに郵便ポストへ【※当日消印有効】

※1ページ目に記載したQRコードやURLからの回答も可能です

- 【このアンケート調査の配布および回収について】**
- このアンケート調査は、那覇市内の12高等学校の全生徒に配布しております。
 - ご回答にあたって、個人を特定することはありません。
 - なお、本アンケート調査は、沖縄総合事務局 運輸部企画室が（株）国建に委託して実施しております。返信先が（株）国建となっていることをご了承ください。

参加者大募集！！

上記のプロジェクトの趣旨にご賛同いただき、参加を希望される方は、左記のはがきにご記入の上、ご返送ください。

締め切り 平成30年10月22日【当日消印有効】

高校生が家族と一緒に、沖縄の抱える社会的課題『地球温暖化防止と公共交通利用促進』に取り組むプロジェクト “smart move（スマートムーブ）” プロジェクト 参加者（参加校）募集！！

【那覇市内高校在校生およびご家族の皆様へ】

この度沖縄総合事務局運輸部では、沖縄の抱える社会的課題である「交通渋滞解消」や「地球温暖化防止」に向けて、高校生の皆様にも、既存のバスをもっと利用してもらうよう、「smart move（スマートムーブ）プロジェクト」を実施することとしております。

実験期間：平成30年11月5日 ～ 平成31年2月22日（予定）

《プロジェクト①》
 バスの乗り方や、便利にバスを使うにあたってバス停の場所が分からないなどの問い合わせには、アンケートで回答いただいた連絡先を利用してお答えします。

《プロジェクト②》
 自宅近くのバス停（途中まで自家用車での送迎もOK）から学校最寄りのバス停まで、路線バスをOKICAで利用していただきます。

《プロジェクト③》
 実験参加者にはOKICAを貸与します。
 貸与するOKICAに、下記によりチャージします。

¥5,000 ⇒ チャージ額	¥6,000	（¥1,000お得）
¥10,000 ⇒ チャージ額	¥12,000	（¥2,000お得）
¥20,000 ⇒ チャージ額	¥24,000	（¥4,000お得）

《プロジェクト④》
 通学利用だけでなく、塾、買い物など寄り道もOK！ 土日の利用もOK！

参加者大募集！！※参加希望者は下記【参加手続】へ

- 応募者多数の場合は、自家用車で通学している方を優先させていただきます。
- 【参加手続】**
- ※1 参加希望者は、左の4頁の**アンケート用紙**、または下記**QRコード**か**URL**からのアンケートのうち、**一つに回答**したうえで※2の手続きを行ってください。
- WEB 回答** **10/23**

QRコード コチラ
- URL: <https://goo.gl/forms/z2t987IKN3VGqYmE3>
- ※2 貸与するOKICAに事前にチャージを行いますので、ご希望の金額を下記の**郵便口座**にお振込みください。（郵便口座をお持ちの場合の振り込み手数料は、月1回に限り無料になります。） **（10/23 振込期限）**
振込口座 記号：17070 番号：17989011 口座名：カクニケン
 なお、お振込み人名の欄には、“希望金額”に続けて“生徒の姓名”をカタカナで記入してください。
- ※3 OKICAの貸与は10月末頃に学校を通じて配布する予定です。
- ※4 貸与したOKICAは、実験終了後、返還していただきます。
- ※5 貸与したOKICAの払い戻しは絶対に行わないでください。また、追加のチャージは行わないでください。
- ※6 利用実態を把握するため、個人情報に配慮して利用履歴を取得いたします。ただし、個人毎の利用実態は調査いたしません。
- ※7 貸与したOKICAは、使い切っていただくことを原則としますが、実験終了時に残額がある場合は、以下に例示する方法で返金いたします。
- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| ○ 購入額¥5,000の場合：（残額 × 5/6） | 返金額 |
| 例：¥3,000 利用 カード残額 ¥3,000 | ¥3,000 × 5/6 = ¥2,500 |
| ○ 購入額¥10,000の場合：（残額 × 10/12） | 返金額 |
| 例：¥3,000 利用 カード残額 ¥9,000 | ¥9,000 × 10/12 = ¥7,500 |
| ○ 購入額¥20,000の場合：（残額 × 20/24） | 返金額 |
| 例：¥9,000 利用 カード残額 ¥15,000 | ¥15,000 × 20/24 = ¥12,500 |

【受託者】 株式会社 国建 土木設計部 /担当：横井千尋、中村 司 ☎098-862-1109

【委託者】 沖縄総合事務局運輸部企画室/担当：池間隆弘、崎濱秀治 ☎098-866-1812